

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:平成27年度)

施設の名称	宮城県啓佑学園
指定管理者の名称	社会福祉法人宮城県社会福祉協議会
施設所管部課(室)	保健福祉部 障害福祉課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘要
平成18年4月 ~ 平成23年3月	指定管理者	社会福祉法人宮城県社会福祉協議会	
平成23年4月 ~ 平成28年3月	指定管理者	社会福祉法人宮城県社会福祉協議会	
平成28年4月 ~ 平成33年3月	指定管理者	社会福祉法人宮城県社会福祉協議会	

(注)管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入してください。

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指定管理者の名称	名称	社会福祉法人宮城県社会福祉協議会
	所在地	仙台市青葉区上杉一丁目2番3号
指 定 期 間	平成28年4月1日 ~ 平成33年3月31日 (5か年)	
募 集 方 法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施設の名称	宮城県啓佑学園	
所在地	仙台市泉区南中山五丁目2番1号	
設置年月	平成5年10月	
根拠条例等	福祉型障害児入所施設条例	
設置目的	知的障害児を保護するとともに、独立自活に必要な知識技能を提供する。	
施設の内容	敷地面積	197,268.68㎡
	構造	鉄筋コンクリート造, 鉄骨造
内 容	管理棟, 入所棟(東棟), 渡り廊下, 焼却炉・ゴミ置き場, 屋外便所, プール等	
開館(所)日		
開館(所)時間	午前 時 分 ~ 午後 時 分	
指定管理者が行う業務の範囲	(1)施設運営の基本的事項 (2)施設の管理運営体制の整備 (3)内部チェック体制 (4)建物・設備等の保守管理 (5)利用者の生活環境等の確保 (6)苦情解決体制の整備 (7)自己評価及び自己点検体制の整備 (8)職員の確保と職員資質向上 (9)事故発生時の体制の整備 (10)防災防火体制の整備・充実 (11)施設利用者処遇等	
利用料金制	採用の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	利用料金の名称	

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成27年度) (A)	前 年 度 (平成26年度) (B)	評価対象年度 (平成27年度) (C)		
開館(所)日数	366 日	365 日	366 日	100.0%	100.3%
延べ利用者数	21,740 人	21,123 人	20,738 人	95.4%	98.2%

(注)対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入してください。

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成27年度) (A)	前 年 度 (平成26年度) (B)	評価対象年度 (平成27年度) (C)		
措置・契約利用者	21,740 人	21,123 人	20,738 人	95.4%	98.2%
短期入所契約利用者	1,464 人	180 人	191 人	13.0%	106.1%
	人	人	人		
	人	人	人		
	人	人	人		
合 計	23,204 人	21,303 人	20,929 人	90.2%	98.2%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入 (単位:千円, %)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成27年度) (A)	前 年 度 (平成26年度) (B)	評価対象年度 (平成27年度) (C)		
県指定管理料	305,405	296,527	304,070	99.6%	102.5%
利用料金収入	0	0	0		
その他	0	0	0		
収 入 計 (a)	305,405	296,527	304,070	99.6%	102.5%

(2) 支出

人件費	224,148	207,339	202,671	90.4%	97.7%
施設管理費	30,684	27,654	25,778	84.0%	93.2%
事業運営費	50,573	48,247	49,255	97.4%	102.1%
その他	0	0	0		
支 出 計 (b)	305,405	283,240	277,704	90.9%	98.0%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	0	13,287	26,366		198.4%
前期繰越収支差額	74,786	61,499	74,786	100.0%	121.6%
次期繰越収支差額	74,786	74,786	101,152	135.3%	135.3%

※ 自主事業を実施している場合は、上記に準じて、自主事業の収支実績を別掲すること。

6. 評価対象年度(平成27年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
①管理運営体制	宮城県社会福祉協議会の経営理念、平成27年度指定管理事業計画において策定した管理運営上の基本方針に基づき、必要職員数を確保するとともに、法人で定める諸規程に基づいて必要な帳簿等を備え、適正な施設運営を実施するとともに、職員の人材育成に努めました。 1 施設内研修 7回 2 外部研修 24回 延べ69人 3 福祉QC活動 1サークル結成	宮城県社会福祉協議会の経営理念、平成27年度指定管理事業計画において策定した管理運営上の基本方針及び法人で定める諸規程に基づいて必要な帳簿等を作成し、適正な施設運営を行いました。	A	施設内研修や外部研修に職員を参加させるとともに、施設全体で伝達研修を行うなど、職員の支援スキルの向上や人材育成に努めている。 また、財産管理についても適正に保管・管理されている。	A
人員体制	正規 22人 非正規 19人				
②施設・設備の維持管理業務の実施	指定管理施設に関する委託契約に基づき、消防設備保守点検など15の業務について保守点検等を行い、施設の建物、設備等の適切な保守管理に努めるとともに、自主点検を毎月実施しました。	建物・設備などは毎月の点検や必要に応じ修繕をおこないました。消防設備等の保守点検など建物内外の安全に関する事は、専門業者に委託し定期的に実施しました。建物内の清掃も専門業者に委託し、良質で安全な環境を利用者に提供しました。	A	定期点検、月毎点検等が確実に実施されており、清掃についても専門業者に委託され、適正に行われている。	A
③運営業務(ソフト事業等)の実施	1 入所定員60人 延べ 年20,738人の方が利用 2 短期入所事業 実人員15人 利用延人数191人 3 利用者の自立に向けて、自立訓練を実施 4 実習生の受入 実習生 実人数27人 延べ日数161日	1 延べ20,738人を受け入れました。 2 個別生活・社会生活・職業生活のスキルアップを目的に、日中活動として取り組みました。 3 福祉人材育成、及び福祉教育推進により、保育実習生等を受入しました。その他大学等の見学者166人を受け入れ、施設の機能や役割等を伝達しました。	A	利用者一人ひとりの障害特性や状態を踏まえた支援計画の作成、実施に努めているものの、それぞれの日中活動の成果を、更に発現させていく必要がある。 18歳以上入所利用者の割合が多くなっていることを踏まえ、今後も18歳到達後の進路を見据えた生活スキルの向上支援や進路支援により、地域生活移行の推進に努めることが望まれる。 保育実習等の実習生を多数受け入れ、福祉人材の育成や福祉教育の推進に努めている。	B
④自主事業の実施	1 虐待その他緊急避難を要する障害児者の保護、受入れ(定員枠外含む) 対象者6人 延べ利用日数98日 2 日中一時支援 契約市町村 8市町 延べ利用者数 115人 ※28年度より事業廃止	社会的な要請、家族からの利用ニーズに応じて対応し、在宅の方々へ施設機能の提供ができました。	A	関係機関の要請等に基づき、虐待その他緊急避難を要する障害児者を受け入れるなど、良好な事業を実施していると認められる。	A
⑤利用者サービスの向上	1 利用者サービスの向上、及び権利擁護の推進等のため、法人として、経営会議の下、サービス向上、権利擁護、危機管理の各ワーキンググループを設置しました。 2 入所支援計画の作成・見直しにより、生活の質の向上を図ってきました。 3 福祉QC活動の推進により、業務改善の推進を行いました。 4 「啓佑だより」の発行 750部×年4回 3,000部 5 県中央地域福祉サービスセンターのホームページに、施設概要のほか、外部評価結果を公表しました。	法人のサービス評価規程に基づく、自己評価を実施し、サービスの向上に努めました。また、入所支援計画の作成・見直しにより、利用者のニーズにあったサービスを提供しました。また、達成すべき状態の明確化により、どのような支援があれば達成できるのか等、支援の明確化を図りました。 なお、福祉QC活動での業務改善により、利用者の特性に合った支援を行うことで不適応行動の軽減を図りました。	A	各種部会等を立ち上げて職員の意識向上を図り、利用者の権利擁護を推進している。 また、自己評価に基づき、提供サービスの見直しや質的向上を図るとともに、入所支援計画の作成・見直しにより、利用者の障害特性や状態に対応した支援の提供に努めている。	A
⑥利用者の苦情、要望等の把握とその反映	「利用者の声」という仕組みや、法人の「なんでも相談規程」に基づき相談窓口を設置し、要望・苦情に対応しました。	利用者の声は、57件の実績があり、利用者の要望に応えました。また、利用者・保護者に対して、苦情解決の仕組み、及び相談窓口担当者の紹介等の周知に努めました。更に、利用者・保護者からの意見は、丁寧に傾聴し、適切な対応を行うよう心掛けました。	A	利用者からの要望をできる限り実現させる努力をしている。 また、保護者総会の場において、保護者等から意見を聞く機会を設けるなど、要望や苦情に対処する体制が整備されている。	A
⑦安全対策	1 ライフライン等の点検・確保を実施しました。 2 毎月施設内外の安全チェックを、点検票により実施しました。 3 避難訓練を実施しました。 3 法令に基づく防災訓練を、年13回実施しました。 4 日中・夜間想定での避難訓練を、年11回実施しました。 5 消防設備器具自主点検を、年12回実施しました。 6 危機管理計画及び緊急時行動計画の周知徹底を図りました。 7 ヒヤリハット体験報告・事故報告には迅速に対応して、未然防止策に生かしました。ヒヤリハット報告数36件 事故報告数 8件(飛び出し等)	避難訓練を定期的実施することで、利用者や職員が日頃から防災に対する意識の向上と、非常時に、迅速かつ適切な行動がとれるよう身に付けることができました。また、設備修繕及び保守点検を継続的に実施し、安全対策を講じました。 事故の未然防止及び再発防止を強化するため、ヒヤリハット報告の集積・分析・共有に取り組みました。 園内感染の予防について、手指消毒等、必要な措置を講じるなど、施設内衛生に努めました。また、定期薬の適正な管理等、誤薬防止を重点的に取り組みました。更に、協力医療機関との連携、及び囁託医による定期的な園内診察により、利用者の健康管理に努めました。	A	ヒヤリハット体験の原因分析をし、職員間で情報共有することによって、事故の未然防止に努めている。 また、事故が発生した際も、リスク管理委員会による要因分析がおこなわれ、再発防止のための取り組みがされている。 併せて、誤薬や怪我が発生した場合に必要な措置の周知や感染予防に関する注意喚起など、施設全体で衛生管理や健康管理に対する意識啓発に努めている。	A

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
⑧ 県民の平等利用	利用者の決定は、平等性の確保のために「入所利用規程」に基づいて実施しました。入所にあたっては、虐待等の理由で保護性の高い措置児童を優先的に受け入れました。また、契約入所希望者は第三者委員を加えた入所調整委員会の開催により、入所受諾の可否を決定しました。	保護の緊急性の高い児童を優先に入所を受諾しました。なお、入所調整にあたっては、各関係機関と連絡調整を図り公平に実施しました。	A	入所利用規程に基づき、保護の緊急性の高い児童を優先的に受け入れるなど、県民の平等利用に対する配慮がなされている。	A
⑨ 個人情報の保護	「宮城県社会福祉協議会個人情報・特定個人情報保護規程」に基づき、施設長を個人情報保護管理責任者と定め、施設内へプライバシーポリシーの掲示、及び個人情報の適正な管理に努めました。	「宮城県社会福祉協議会個人情報・特定個人情報保護規程」を遵守しました。特に、個人が特定される書類の取扱いに注意するとともに、必要に応じ、利用者、家族に同意確認を得ました。更に、対外的な場での職員の言動等、日頃から十分注意・配慮して業務に従事しました。	A	法人で定めている規程を遵守しており、その規程に基づき、個人情報の適正な管理がなされている。 また、個人情報の保護に関する職員の意識啓発にも努めている。	A
⑩ 利用実績	上記「4. 施設利用実績」のとおり。	定員60人に対して、男子が4分の3を占め、入所待機者も男子が多い状況でした。平成27年度については9人が退園しました。内訳は障害者支援施設への移行6人、グループホーム1人、家庭復帰1人という実績となりました。今後も地域生活移行の取り組みを継続します。	A	18歳を迎える入所利用者について、進路先等の検討及び調整を行うなど、移行先の確保に努めている。 短期入所については、利用者数が低調ではあるが、セーフティネットとしての役割を果たしている。	A
⑪ 収支実績	上記「5. 管理運営収支実績」のとおり。	概ね良好だと考えます。	A	会計・経理事務を適正に執行し、適正な収支実績となっていると認められる。	A
⑫ その他の取組	1 環境に配慮した取り組みの推進として、アイドリングストップ・リサイクル等エコ活動に取り組みました。 2 地域生活移行の推進として、関係機関との連絡調整のため、積極的に向きましました。 3 個別支援計画で利用者の発達課題を明らかにし必要な支援を全利用者を対象に常時実施しました。 4 喜ばれる食事サービスとして、オーダーメニュー等多様な食事提供をしました。 5 地元地域との交流を大事にしており、双方の事業に参加をしました。(夏祭り、総合防災訓練)	地域に根ざした施設作りや環境エコの取り組みの実践は、多くの地域住民、学生等のボランティアの受け入れや、地域の社協の評議員を引き受けていること、地域行事への協力等に企画から関わることなどで一定の成果を得ることができました。また、利用者の地域生活移行への取り組みとして、毎月の学校との定期的な連絡会の実施、学校、措置機関、市町村、保護者、啓佑学園が一堂に会しての進路決定会議の開催、保護者との成人施設見学会の実施、及び個別ケース会議の実施があげられ、一定の成果が見られました。	A	地域との結びつきが強く、夏祭り等の地域行事に積極的に参加している。 また、総合防災訓練や介護訓練を施設でおこない、地域の理解を得る機会を設けている。	A
総合評価		県立児童施設の役割として、緊急に保護が必要と判断される児童の入所を行うとともに、利用者の地域移行に向け、一人ひとりにあった進路支援を個別支援計画に基づき実施することができました。運営面では、県からの指定管理料を基本とした収支予算を編成し、決算を行うとともに、指定管理者として施設を適切に管理し、県有財産・県民財産の保全を図りました。	A	指定管理者として、事業計画に基づき、施設の管理・運営が適切になされるとともに、利用者一人ひとりの移行計画に基づいた進路支援が適切になされていると認められる。 なお、18歳以上入所利用者については、利用者家族や関係機関等との調整など、移行先確保に向けた一層の取り組みが求められる。	A

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項 目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	<p>県立施設として、重度や行動障害を有す障害児だけでなく、被虐待児等、家庭環境に問題のある方を受け入れています。一方、障害者支援施設の空きがない等、社会資源の不足により、スムーズに退所できない状況があり、利用者の3分の1強が18歳を超えた年齢超過児となり、徐々に増加する傾向となっています。</p> <p>今後、保護を必要とする障害児を速やかに受け入れるためにも、年齢超過児の進路支援については、各関係機関と連携を取りながら、最重要課題と位置付けて取り組んでいく必要があります。</p>	<p>児童福祉法の改正に伴い、18歳以上入所利用者の処遇をどのようにするかが引き続き課題となっている。</p> <p>地域生活移行や自立訓練を進めるとともに、関係機関との調整を図りながら、今後の施設運営形態を検討していくことが必要である。</p> <p>また、将来的な利用者の地域生活移行を見越して、地域での受入体制を構築していくことも課題である。</p>